

(別紙6)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年8月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0770402469		
法人名	非営利活動法人 厚斯会		
事業所名	グループホーム フェアリー・1		
所在地	福島県いわき市植田町中央1丁目12-8 (電話) 0246-77-0686		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利七社宮111番地		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年8月30日

【情報提供票より】(2007年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	12人	常勤3人, 非常勤9人, 常勤換算5.1人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	14,000円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200円		

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

利用者人数	4名	男性	0名	女性	4名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 78歳	最低	57歳	最高	86歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	寺島病院・矢吹病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商店街の一角に位置し最寄の駅まで徒歩数分という立地条件のよい地域の中のグループホームである。若年性認知症の方など、4人の利用者がのんびり、ゆったりとすごしているように感じられた。かかりつけ医の協力もあり、医療面での体制も取れている。施設長が病気療養のため入院中で不在であった。経営者は、自営業と兼務で経営者の妻が主となり業務にあたっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、おおむね全体的に改善されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、外部評価の趣旨や意義について職員に説明し、今後に生かそうとしていた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議はまだ開催されていないので、早急に開催を検討してほしい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族から出された要望や意見等については、職員間で話し合い、情報の共有に努めている。家族等が要望や意見を気軽にホームに伝えることができる雰囲気作りをし、出された意見、要望等を運営に反映してほしい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域活動(堀の掃除・草取り等)に利用者と職員と一緒に参加し、近隣住民との交流をしている。また、顔馴染みになりあいさつ等も行っている。他にホームではボランティアの受け入れもしている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域から信頼される事業所づくりを目指した理念をつくっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を廊下に掲示をしたり、パンフレット・契約書にも明示されているが、理念にそったケアの実践になっているか確認する場が少ない。		ミーティングや話し合いで理念を共有し、サービス提供が理念にそったものかどうか常に話し合っ実践して欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として行事に参加したり、図書館を利用したりしているが、自治会や老人会との関係が薄い。		自治会・老人会との関係がより密接になるよう検討してほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価後、職員間で話し合いながら改善するなど、積極的な姿勢がうかがえた。		さらに改善できるところは改善をし、質の高いサービスの提供に取り組んでほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は今のところ開催していない。</p>		<p>運営推進会議への参加を依頼しているメンバーに意義や役割を理解してもらえよう働きかけ、会議を開催してほしい。</p>
	9	/			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>利用者の暮らしぶりは、ホーム便りなどで家族等に報告している。個別的な状況(金銭管理など)に関しては、直接電話で報告しているのみである。</p>		<p>利用者個人の出納帳等の報告に関しては、家族等が面会に来たときにサイン等を頂くようにしてほしい。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱は設置されている。ただ、家族等からの意見や要望、苦情等があったときの記録が残されていない。</p>		<p>家族等が要望や意見を気軽にホームに伝えることができる雰囲気作りをし、出された意見、要望等を運営に反映してほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>一年間の離職者が8名もいた。</p>		<p>馴染みの職員が離職する事は、利用者や家族へダメージを与えることになるので、離職の原因を考え、継続して働けるような職場作りをしてほしい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	何人かの職員は研修に参加しているが、その内容が職場内の報告会等で報告されず、また、研修の報告書が残されていない。		参加した職員は、研修報告書を作成し全職員に内部研修として報告できる体制を整えてほしい。また、働きながら知識や技術を身につけていくための方策を検討してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の会員になっており勉強会などにも参加しているが同じ人の参加が多い。また、研修に参加した記録が整備されていない。		参加する職員が毎回同じ人にならないような工夫や職場内での勉強会を実施してほしい。また、研修の成果を職員間で共有するため、参加した研修の記録を残してほしい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から職員が料理を教えていただくなど、共に支え合うよい関係作りに努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの利用者の思いや願いを日々の生活の中で聞き取るように努めているが、把握できていない部分もある。		さらに職員全員が、一人ひとりの思いや意向についてより感心を持ち、思いや意向の把握ができるよう取り組んでほしい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が中心になり計画作成をしているが、職員間での話し合いが少ない。		利用者のニーズはもちろん、その他ご家族からの情報提供・希望・かかりつけ医の意見を取り入れ、職員で話し合い、介護計画を作成してほしい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月毎定期的には実施しているものの、変化に応じた見直しがされていない。		担当者も含め常に利用者の日々の変化に対応した介護計画の見直しができる体制づくりをしてほしい。
3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス契約時に本人・家族等の希望を取り入れ、かかりつけ医を決めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りのケアについては事業所・家族・職員間の話し合いは今のところ行っていない。		家族等の要望も取り入れ、医師や家族等と話し合い、事業所の対応方針を決め、家族等とも共有化してほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録する場所や個人情報の保管場所などには十分な配慮をしている。また、職員間の申し送りノートなどの使用に関して、個人情報の取り扱いに気を使っている。プライバシーの確保に関しては、職員間の共通認識がない。		プライバシーの確保についての具体的な取り組みを職員間で話し合ってもらいたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを尊重し、買い物や散歩などを取り入れている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買出しは一緒に行っている。また、食事を利用者と職員と一緒に取っていたが、一人ひとりが食事を楽しめるようにする支援が不足していた。		一人ひとりの能力や意向にそって、食事が楽しめるように支援してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昨年までは週2回と決まっていたが、今年から2日に1回入浴できるように改善されていたが、利用者の希望にそって入浴を楽しめるようにする取り組みが不足している。		入浴時間に関しては事業所主体で考えているが、できれば利用者の希望にそった時間に入浴できるよう検討してほしい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	生活の中に利用者が参加できることが少ない。		利用者と向き合い、役割・楽しみ・気晴らしなどの個別的支援を全職員で考え取り組んでほしい。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	たまに外出などを行っているが、日常的な外出は少ない。		外食やドライブ、散歩など短時間でも外に出る機会を作ってほしい。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は一切施錠はせず開放的空間になるよう努めている。天気の良い日等は玄関・窓を開けるようにしている。また、徘徊のある利用者には、一緒に話をしながら戸外を歩くなどしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルや緊急連絡網などは作成されている。避難訓練は年3回、応急手当の講習は年1回実施しているが、地域住民の協力を得られるような働きかけがない。		今後は地域の住民の協力を得ながら、様々な時間帯を想定して避難訓練を実施してほしい。また、訓練結果の報告書なども作成し、運営推進会議で報告するなどして、地域住民との協力関係をつくってほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個々のチェック表に記録し、職員間で情報の共有化を図っている。また、栄養士に適時アドバイスをもらいながら献立表を作成しているものの、献立の副食が一日2食又は夕・朝同じものが出ている。		食事に関する勉強会の開催なども取り入れて、早急に献立内容を改善してほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には椅子があり、それぞれが休める場所になっている。食堂・談話コーナーからは台所が見え、調理しながら会話ができるようになっている。中庭を眺めることも出来、天気の良い日には網戸にして外気を取り入れる工夫もしている。浴室は外からの光がよく入り、トイレの電気も明るい。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた椅子、たんす等があり、居心地の良い雰囲気になっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(別紙1)を添付すること。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム フェアリー・1

記入担当者名 矢部 めぐみ

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。